



暑い夏を涼しく過ごす方法の一つに「打ち水」があります。

「打ち水」は水が蒸発する時に一緒に地熱を奪い、周囲の温度が下がることで涼しく感じられる効果が出るものです。

水を利用する「打ち水」ですが、必ずしも冷たい水道水を使う必要はありません。お風呂の残り湯など、使った後捨ててしまうだけの水を再利用することでも十分効果があります。水道水を使わないのであれば、節水にもつながりますね。

誰にでも簡単にできて、環境にも優しい涼をとる方法。今年の夏は是非「打ち水」を試してみてくださいはいかがでしょうか。

DUCTILE TIMES編集部

「管路更新を促進する 工事イノベーション研究会」 本報告書が発行されました

「管路更新を促進する工事イノベーション研究会」の取り組みと小規模簡易DB実施手順等を取りまとめた本報告書が完成しました。以下、URLより閲覧いただけます。

※詳細は日本ダクタイル鉄管協会へお問い合わせください。

【ダクタイル鉄管協会】

<https://www.jdpa.gr.jp/koujiinov/innovation.html>

【日本水道協会】

広域化及び公民連携情報プラットフォーム
<http://www.jwwa.or.jp/wide-ppp/>

水道管路の更新スピード向上をめざす 小規模簡易DB方式

DUCTILE TIMES4月号でもご紹介させていただいた小規模簡易DB方式について、ご興味を持っていただいた事業者様が増えています。

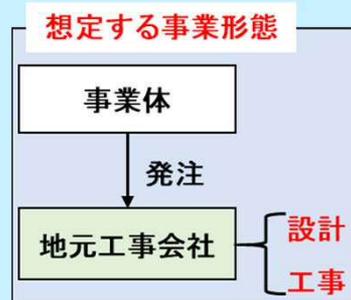
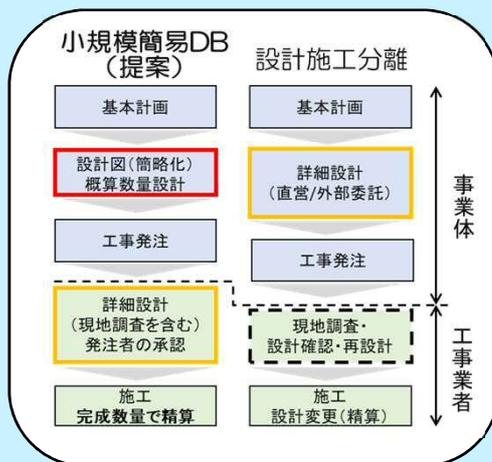
小規模簡易DB方式とは、**地元工業者を主体とする簡易で小規模な設計施工一括発注方式**であり、管路更新の促進のために、日本ダクタイル鉄管協会が複数の水道事業者と共同で設立した研究会（左部参照）において、議論・検証の中で有効と考えられた方式です。

大規模なDB導入は、総合評価方式での入札等による業務負担の増加や、

工事額増により地元工業者の受注を難しくする場合があります。そこで、研究会では小規模工事を想定し、**事業者と工業者双方の業務効率化**を図る仕組みを提案しています。

具体的には、発注前の詳細設計の省略により事業者の設計積算業務を効率化し、受注工業者が現地調査後に自ら詳細設計することで、手戻りの少ない工事進行が期待できます。

本報告書には、モデル事業のモニタリング結果に加え、導入マニュアル等の参考資料も掲載されています。是非、ご参照下さい。



オンライン技術説明会 はじめました

新型コロナウイルス感染症の拡大防止と事業者の皆様の安全を確保するため、弊社では、Googleが提供するビデオ会議ツール「Google Meet」を活用した、オンラインによる技術説明会をご用意いたしました。

〈実施しているオンラインでの取り組み〉

- ・技術説明会（管路設計のポイント等）
- ・製品/システム説明会（小規模簡易DB等）
- ・各種打合せ

※開催方法につきましては、弊社営業担当者までお問い合わせください。

上記以外にも、オンラインでの様々な取り組みを検討しております。順次ご紹介させていただきます。

久保田権四郎History (水道編②)

以下、DUCTILE TIMES7月号「久保田権四郎History (水道編①)」のつづきとなります。

1897年、「合わせ型斜吹铸造法」による直管の製造には成功しましたが、まだまだ生産性は低い状態でした。その後も研究と工夫を重ね、1900年に「合わせ目のない鉄管」を安定して製造できる「立込丸吹铸造法」を開発。大阪市の水道拡張工事にクボタの鉄管が採用され、業界の注目を集めます。

さらに1904年、鉄管の量産体制を可能にする「立吹回転式铸造装置」を開発し、ついに国内初の水道管の量産がスタート。「鉄管のクボタ」として、当時数少ない国産鉄管メーカーの地位

を確立しました。

日本初の水道用鉄管の製造から130年。時代のニーズに応える形で、強靱な材質・様々な継手・工法を開発し続けてきました。近年では、耐震性と長期耐久性に優れた耐震型ダクタイル鉄管「GENEX」を開発させるなど、日本の水道インフラを支えています。



【特許回転式铸造装置】